

ふれあい 支えあう すこやかなまち 住みよい高須 たかす社協だより

第12号(春・夏編)
令和元年 6月15日発行
高須地区社会福祉協議会
発行責任者 香月 英彦

ナイスエージング北九州・だれひとり取り残さない「たかす元気プラン」推進！

高須地区社協 会長 香月 英彦

令和2年度高須地区社協総会・コロナ禍書面表決で可決・推進！

2020年1月発生した**新型コロナウイルス**が拡大し、日本でも4月7日に緊急事態宣言が発出されて5月25日解除されました。解除後北九州市では第2波の予兆がおこり長期戦の様相です。

今後、ワクチンがない中、3密(密集、密接、密閉)の禁止、マスク着用、手洗い消毒などウィズコロナの「**新しい生活様式**」が日常生活の中で求められており、サロンなど福祉活動にも新習慣を取り入れながら新しい展開をめざしたいと思います。

こうした状況下、5月の社協総会も書面表決をお願いし、可決され、新役員・班長でスタートしています。「ワンチーム」の精神で努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

【新組織紹介】

- *会長 香月 英彦 *副会長 前田 忠行・田代 香・山本 直子
- *会計 高崎 弘子 *事務局長 渡辺 紀早子・次長 山口 保浩
- *監事 神谷 純子・佐藤 郁子
- *班長 吉留 智子(東班)・岩田 蓉子(西班)・香月 英彦(南1.2.5班)
坂田 信子(南3班)・谷川 澄子(南4班)・松崎 朱美(北班)

今期、皆さまの協力を得て推進いたしております「第2次小地域福祉計画(2019-2023) たかす元気プラン」の基本理念「**ふれあい 支え合う すこやかなまち 住みよいたかす**」の実現にむけて令和2年度の計画にチャレンジして参ります。

高須は、誕生してほぼ40年、風格のあるまちに成長しています。やさしい福祉のまちをめざし

- ① サロンなどの居場所づくり
- ② 認知症支援・SOSネットワークづくり
- ③ 健康づくり
- ④ ちょっと応援タイの生活支援

などを通して、**ナイスエージング北九州(安心して年を重ねられるまち)**を願い、**少子高齢化(高須高齢化率32.1%)がすすむなか、だれひとり取り残さない「たかす元気プラン」**をすすめて住み続けたい「高須」をご一緒に目指しましょう。

推進に当たっては、**たかすリビング・ラボ**(生活の共創)の考えで、産学官の協力を得ながら2025年(団塊の世代が後期高齢)2030年(SDG's目標年度)を見据え、今を大切にしながら人生100年時代を自分の事としてとらえて豊かな生活が営める地域にしていきたいと思います。



～学童保育クラブと介護施設のコロナ対応～

高須地区社協 副会長 前田 忠行

緊急事態宣言以降、及び解除後も学童クラブ・介護施設においても感染への不安と緊張の中で運営が続いています。(学童保育クラブ以下学童)

学童においては「学校より学童が感染リスク高いよね」「学童が閉鎖されたら仕事は行けないし、子どもは何処に預けようか？」などの不安の声がよく聞こえました。学童では手洗い・うがい・手指消毒・検温・施設の換気・消毒、介護施設では併せて、面会自粛・デイサービス利用の自粛・外部者との接触回避など感染予防の対策が実施されています。学童でも「3密」が避けられない中、感染リスクを減らすため、市からの「受け入れ対象家庭」のみ利用可となりました。



ピンチをチャンスに！「巣ごもり生活」で家族や近隣との結束！体操の習慣を身につけよう！

外出自粛でフレイル(虚弱)・ストレス増・持病悪化・健康の低下が心配

—高齢者の方々にお電話でお身体の様子を伺ってみました。—

新型コロナ緊急事態宣言で、外出自粛と移動が制限され、地域での様々な行事も中止になりました。多くの方々が、自宅にこもりがちになりました。こうした中、北九州市立大学の坂本毅哲准教授のご指導で、高須地区の高齢者115名に、電話で「健康のお伺い」を行いました。取材は、福祉協力員が日頃の見守りの方を中心に聞き取らせていただきました。お応えくださった皆さま、ありがとうございました。

まだ、十分な分析は出来ていませんが、一部結果をお知らせします。

【外出の頻度・健康状態・不安要因】

外出頻度は、週2～3回が全体の40%、それ以下を加えると74%にもなり、厳しい外出自粛生活がうかがわれます。今の健康状態については、健康でないと思っている方が41%、また健康に不安を持っている方は63%と半数以上の方が健康維持に難しさを感じ、新型コロナウイルス感染への恐怖も見えました。

健康に対する不安要因の1位は、体力が衰えている。次に、ストレスを感じ精神的にも疲れているでした。更に癌や持病であったり、生活習慣病、認知症などに不安を感じているということでした。

【現在困っていること】

大きく分けて、新型コロナウイルス感染への恐怖感とストレス、介護の問題、居場所がない等でした。

・感染への恐怖とストレスでは、院内感染が怖く大病院に行けない、外出できない、妻が入院しているが見舞いに行けない、憂鬱に過ごす事が多くなっている、県外はもちろん市外にいる子どもに会えないなどでした。・介護の問題では、要介護の奥さんを抱えていてもヘルパーさんが来れない、デイサービスが休みになってしまった、認知症が心配などでした。・居場所については、サロンの中止や市民センターが使えず、趣味の教室やクラブ活動が中止になったり、行きつけのスーパーの休憩所がなくなり、話をしたり、ゆっくりできる場所がないのは本当に淋しく思うなどがありました。



このように生活が変わってしまった今だから、



【この巣ごもり生活での工夫について】

食事づくりを始めた(男子厨房に入ろう!ですかね)、家の片付けや整理をした(終活・断捨離の時間がたっぷり)ひとりでカラオケをしてみる、庭木の剪定をする、サロン活動の体操を思い出しながら夫婦で体操をしている、マスクづくりに励む、ご近所の方や親戚に電話をしたり、たまには娘さんに頼ることもしているのだそうです。



※電話で皆さんへの「健康お伺い」から感じること

新型コロナウイルスに対する外出自粛、3密防止などでストレスが増すなかで、「巣ごもり生活」の中から新しい家族関係や近隣の方との結束、フレイルへ健康対策の工夫が感じられます。今後、社協では、電話連絡など新しい「見守り」の方法を工夫してまいります。(文責 香月英彦)



保護者様への「学童利用自粛の協力をお願い」に対し、日頃90数名の学童利用が、保護者、子ども達の協力で20～40名まで減り、感染リスクの低減にもつながっていると思われま

す。また、学童、介護施設で今年は風邪やインフルエンザの罹患が少なかったとのお話をよく聞きました。手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用などの徹底した感染予防をした結果、少なくなったと思われま

す。子どもを学童に預けて働く医療従事者、介護施設従事者、ひとり親家庭などの保護者の皆さんから「学童を開けてくれてとても助かります。お陰で仕事に従事できます。ありがとうございます。」と感謝の声が聞こえます。このように感染リスクの高い中、学童は感染予防もしながら不安と緊張の毎日ですが、子ども達、働く保護者の支えになって開所できていることを指導員のみなさんに感謝したいと思います。今後も感染拡大の「第2波」を防ぐためにも、引き続き感染予防に努めま

